

学校だより太田

平成 27 年 10 月号 和歌山市立太田小学校

国体観戦(9月11日)

9月26日(土)、44年ぶりに国内最大のスポーツの祭典の「紀の国わかやま国体」が開幕しました。全国から和歌山県にたくさんの方が集まり10月6日まで、各地で競技が行われるそうです。子どもたちが作成した選手歓迎ののぼりや育てたサルビアの花もどこかの競技会場で、一躍を担っていることでしょう。

5・6年生は、開会式よりも一足早く、体操競技をビッグホールへ9月11日に観戦に行きました。ちょうど、和歌山県の少年女子(中高生の代表)の演技が行われていました。会場には、たくさんの方が観戦をしていて、会場全体で応援を行いました。

女子の体操競技は、跳馬・床・平均台・段違い平行棒の4種目が行われ、さすがに日本を代表する選手は、回転したりひねったりして、とてもすばらしい演技を観戦することができました。こういう演技を目の前に見ることが少なく、子どもたちもよい経験をさせていただきました。

風の子活動(9月16日)

風の子活動は、1年生から6年生までの子、数人ずつで1つのグループを作り、グループ単位で、なわとびやドッジボールをしたり、給食を食べたりなどの活動を行います。低学年の子は高学年の子に教えてもらいながら楽しそうに活動をしています。また、高学年の子は、優しく低学年の子に教えてあげています。

かつては、外に出れば、空き地があり、近所の子がいっしょに遊んでいました。年上の子は、年下の子を引っ張っていき、時には小さい子のために、特別ルールを作ったりもしました。たとえば、鬼ごっこで小さい子が捕まっても鬼にならなくてもいいというルールにし、異年齢で同じ遊びを楽しみました。

こんな遊びの中で、年上の子は、頼られたり、教えたりしながら、年下の子にたいして心優しい気づかいができるようになり、小さい子を守ろうとするようになります。遊びの中で、いろいろな関わりあいができ、自分を成長させる場でもあったわけです。また、こういう集団遊びの中で、自然といろいろな規律を子ども自身で学び、それを守らなければならないという規範意識が育つ一面もありました。

そこで、学校でも、異年齢の集団で活動することが大切だと考えて、風の子活動を行っています。